

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

団体名	高島子供盆踊り実行委員会		
事業名	高島子供盆踊り		
実施期間	2025年8月15日～17日		
事業の目的及び期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・高島地区で伝統的に踊られている高島越後踊りを後世に継承していくために、子ども盆踊り唄、潮音頭、潮踊り唄などの子どもたちに身近な踊りの事業を実施。 ・その中で、高島越後踊り保存会の皆さんと越後踊りを踊ることで、伝統的な踊りに触れ合ってもらおう。 ・これらを通じて高島地域を盛り上げていく。 		
実施額	事業費	683,500円	助成額 294,700円
事業内容	別添チラシのとおり		

◎事業の日程について

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
	別添チラシのとおり		

◎事業評価について

<p>1. 事業の目的の達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各日の大まかなスケジュール 16:00～16:15 会場集合 16:15～16:25 高島越後踊り、10分間の休憩中にくじを配布 16:35～16:50 子供盆踊り唄、10分間の休憩中にくじを配布 17:05～17:15 高島越後盆踊り、10分間の休憩中にくじを配布 17:25～17:45 子供盆踊り唄、10分間の休憩中にくじを配布 18:00～18:30 15日マジックショー、16日翔楽舞よさこい、17日お笑いショー 18:30～19:00 大抽選会
--

- ・子どもの来場数(配布したくじの枚数から)
16日約 130名(配布したくじの枚数約 500枚)
17日約 200名(配布したくじの枚数約 800枚)
18日約 230名(配布したくじの枚数約 800枚)

・2年目の事業として高島子ども盆踊りのチラシは市内全小中学校に配布したので、参加できずとも、事業が行われていることの認知は広げられたが、昨年より実参加人数が少なかった。

- ・昨年よりも飲食や物販に力を入れた。ゲームコーナーは運営上の課題から廃止した。
- ・今年は3日間、抽選会の終了後に来場した全ての子どもにかき氷を無料で配布した。
- ・子ども盆踊り唄や高島越後踊りでは、櫓に上がって、太鼓を叩く体験(横で叩く大人の様子を見ながら自由に叩く)をした子どもが連日30~70名以上いた。今後、太鼓の練習会などを事前に行ったうえで事業を実施すれば、目的がより達成され则认为る。
- ・くじを複数回に分けて配布したことで、昨年より、16時から参加してくれる子どもが多かった。
- ・19:00~同会場で高島越後盆踊りが行われるが、子どもたちの多くが、抽選会終了後に帰宅してしまうため、連続性をどの様にもたせるのが課題であったが、かき氷の配布を19時~にすることで滞在時間を延長させることができた。
- ・来年度以降も実施してほしい旨の声が寄せられているため、実施を模索している。

2. 事業の効果(参加人数の面から)

(実績の参加人数は想定した人数の何パーセントだったか) ※実績数÷想定数で計算

参加人数は昨年を参考に、各日最大300名を基本とし、それ以上の来場があっても、くじの配布枚数を追加して対応した。

- ・子どもの来場数(配布したくじの枚数から)
用意したくじの枚数は連日1,000枚
16日約 130名(配布したくじの枚数約 500枚)
17日約 200名(配布したくじの枚数約 800枚)
18日約 230名(配布したくじの枚数約 800枚)

(上記の割合となった理由や上記の割合に対する自己評価などを記入すること)

- ・金曜日は土日に比べ、子どもも大人も来場が少なかったが、例年行われている高島越後盆踊りも金曜日の来場は少ないため、想定内の人数であった。
- ・来場する子供の数は昨年より少なかったが、付き添いや大人のみでの来場が多く、会場にいる人の人数は昨年より多かった。
- ・くじを貰うときだけ踊りに来る子どもを防ぐために、適宜マイクでアナウンスを行うことで、常時子どもが踊っている空間を作ることができた。

3. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

・ 昨年は盆踊りは踊り終わったらお菓子などの粗品を最後に貰って帰る場合が多いが、今回は各日2時間でしっかり踊ってもらうこと、高島越後踊りに親しんでもらうことを想定し、これまで参加したことのない子どもにも興味を持ってもらうため、時間ごとにくじを配布し、いくつかの豪華景品を用意し、全員に粗品を渡すことはしない形式にした。しかし、初日にくじに当たらなかった子どもの中には悔しくて泣き出したり、何も当たらないのは可愛そうだとクレームを入れる保護者が多数いたため、二日目からは参加賞としてかき氷を提供した。そのため、今回は来場者全員にかき氷を提供した。

・ 豪華景品によって多くの来場者を見込んでいたが、想定よりは少なかったため、高額景品が少数に当たるより、小額景品が多数に当たるほうが、子どもの来場につながる事がわかった。しかし、具体的な景品の選定が難しく、その場で食べられるお菓子などの景品を各日100個程度用意し、2人に1人はかき氷以外に何か当たる状況にした。

・ 例年の高島越後盆踊りは椅子やテーブルをさほど設置していないが、今回は多数用意したため来場者に喜ばれた。

・ 高島越後踊りは例年盆踊りとして高島地区で踊り継がれてきたが、近年では主催者の高島越後踊り保存会や高島町内会役員の高齢化やコロナ禍での中止、小規模開催を経て、次第に地域住民の来場が少なくなり、保存会の会員も一時は数十名まで減少しました。一方で、高島越後踊りは踊りが複雑で、気軽に参加しにくい状況です。それらも踏まえ、これらかを担う若い世代や子どもたちが、まずは櫓を中心に輪を囲んで踊る一般的な盆踊り（子供盆おどり唄）や潮音頭などとともに、高島越後踊りを保存会会員の指導の下、踊ってもらいました。そのようなイベントの構築が保護者を中心に良い評判を多数いただきました。

4. 今後の事業について

・ 高島越後踊り保存会や高島町内会のほか、新たに発足された小樽高島花火実行委員会と連携し、地域イベントとして確立し、引き続き伝統文化の継承や振興、賑い空間として定着させたい。

・ 高島地区は地縁血縁関係の強い地域です。町内会役員や町内の子ども盆踊りのイベントを地域社会全体で支える形にし、地元の企業や学校、団体などと協力することで、地域の子どもや若手も実行委員会に入り、地域の一体感を醸成し、みんなで作り上げるイベントにしたいが、足がかりとして、現在設立準備中である高校生以下の若者を主体とした高島のまちづくり団体と連携したい。

・ これまで、国内外の観光客に向けた視点はなかったため、高島域外の方にも伝統文化を知ってもらう何かしらの取り組みも検討したい。